投入終了後、気づいたこと

・投入終了後、10日間ほど攪拌した後は放置したが、基材（土）の状態は変わらず、サラサラしている。

・当初より基材（土）の温度は、気温以上に上昇することはほとんどなかったが、順調に分解は進んだ（29℃～31℃に上昇したことが3～4回）。

・投入終了直後に比べると、コンポスト内の全体量がだいぶ減少したのがわかり、分解が進んで、生ごみが堆肥化しているのだと実感できた。

・畑のある人は直接畑でコンポストを利用し、畑のない人はこのダンボールコンポストに、取り組むとよいと感じた。どちらの方法も、確実に生ごみの減量につながると思う。

・水の投入量が多すぎたためか、温度がほとんど上がらなかった。

・分解の効果によって、残飯を入れ続けても全体量がそれほど増えないのが不思議だった。

・生ごみが腐敗した時の悪臭がほとんどなかった。

・揚げ物をしたときの廃油を100cc入れたところ、基材の温度が35℃～40℃くらいに上がり、4,5日すると、気温より少し高い程度に戻った。

・EM活性液があったので入れたところ、基材の温度30℃（気温は25℃）になり、5日ほど経過後に19℃になった。

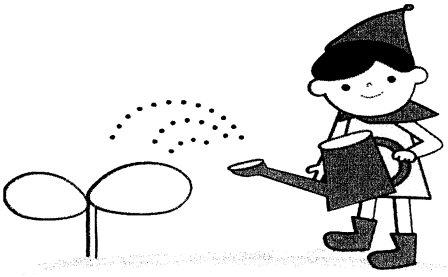
・水分の加減がわからず「水分が少なすぎて発酵しないのか」「温度が上がらないのか」と悩んだ。

・表面に白いカビが生えても、微生物の発酵によるもので問題ない。

・気温が高い時は分解が早く、寒くなると（11月頃）微生物が働きにくくなるのか、分解が遅い。

・ダンボール箱が湿気を帯びて破れたため、新しい大きいダンボール箱に取替えた。

・虫がわいたので、酢を入れて様子を見たが、死んだと思うとまたわいてきて困った。生ごみ発酵促進剤を入れたが、なかなか虫が死なないので、思い切ってダンボールを新しいものに替え、少しの間、生ごみを投入せずに様子を見た。
虫がいなくなってから投入を再開したが、気温が寒くなったためか、発酵せず湿ったままだった。失敗か？



・温度が上がらず、小さい虫が少し発生した。細かく切ると分解しやすいとわかった。

・生ごみの形がほとんどなくなった。

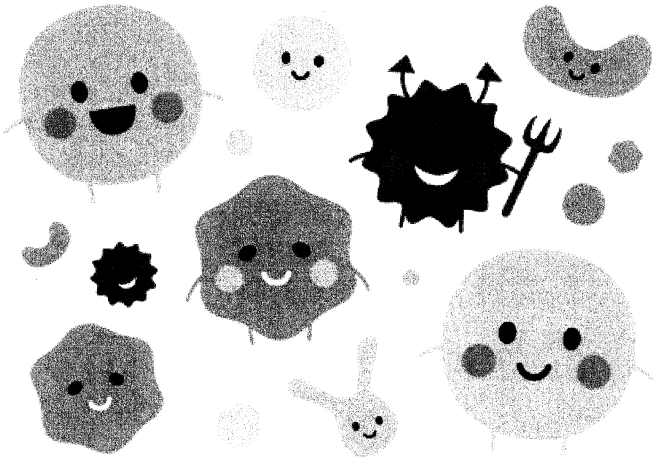
・温度が上がらず、投入終了時は気温も低かったせいか、大きなものは分解されていない。もう少し細かく切ってから投入することが大事なのかと思った。

・投入物が乾燥して残っているが、つぶすと粉々になるものと、石ころかなと思うくらい丸く固くなって残っているものがある。

・温度上昇はなかった。

・粒々があるが、指でつぶすと意外とサラサラしていて、中に野菜くずなどが入っていた。

・小バエが時々、数匹発生したが、増えることはなかった。

・投入を終了したことで微生物が働かなくなったのか、温度はずっと低い状態だ。

・投入を終了したことで、分解がなくなったのか、微生物が働かなくなったのか、温度がずっと低い状態。